

映画を観た後に仲間や監督などゲストとグラスを傾けながら話し合う。それは映画館でもDVDでもネットでも味わえないダイナミックで貴重な体験です。映画について人と語り合い、その意見の多様さに直接触れる豊かさ。自宅のようにくつろげるバーで、お酒に美味しいお料理も。静かに耳を傾けるだけでもいい。来れば何かが変わるかも。

大阪ストーリー

a documentary

監督：中田統一

人生、金が全てやないで父、ナナで金儲家を営む在日韓国人

はよ結婚ししいや母、父のバチンコ店を手伝う

世界中で高い評価を得た在日韓国人一家のドキュメント初のDVD化、ここでしか観られません！

1994年 シカゴ国際映画祭ゴールド・ヒューゴ賞
1994年 バンクーバー国際映画祭審査員特別賞
1994年 国際学生映画祭グランプリ
英国BBCでゴールデンアワーに放映

オサカ ストーリ

監督自身の親へのカミングアウト、在日韓国人の戦後 発展の歴史と、日韓の国際性と、差別問題を含み、家族の実像をユーモアを交えてカメラに収めた。

●坂本龍一

ぼくはこのドキュメンタリーをほとんど偶然のようにエジンバラで観た。そこで知り合ったロンドン在住の日本人が作った最初の映画だという。最初は付き合い程度の関心で親に行っただが、進行するにつれてぼくはその映画にどんどん引きこまれていった。そこで展開する複雑な関係、日本と韓国のこと、父と母、親と子、老いの問題、このドキュメントは単に対象に肉迫しているだけでなく、それを撮っている当の監督自身とその家族の問題をえぐります。まるで自分自身を解剖台の上に乗せて、手術しているかのようなその迫りにぼくは圧倒されてしまった。映画が終わった時、ぼくは涙を流しながら監督であるこの若い青年を抱擁していた。

●鴻上尚史

この作品は面白いとか面白くないとかのレベルをはるかに超えている。僕は作品が進行していく中で、何度も画面に向かって声を上げた。それがどういふ事なのかを考える間もなく、驚きとまどいが連続した。この作品は、「人は何故、作品を作るか」という根本的な問いに対するひとつの明快な答えである。
●トータス松本(ウルフルズ)
ものすごい映画でした。タイトルからは、想像できない。「大阪ストーリー」でした。もし続編が作られるならば、絶対見逃せない、と感じました。

(1994年/77分/DVD上映)

2016 6/25(土) ①16:00 ②18:00

開場15分前、上映終了後トークなしで入れ替え

懇親会 19:30 1時間

ゲスト：中田統一監督

お申し込みは、予約フォーム www.taenoha.com

主催：たえのは



たえのは



/taenoha



@taenoha

入場料： ¥1,500 (各回入替15名)

懇親会： 1ドリンク軽食つき ¥1,500

会場内飲食：ドリンク250~500円、スナック類100円セルフサービス

場所： ダイニングバー・モンキーランド

多摩市豊ヶ丘1-11-1(小田急・京王多摩センター駅徒歩15分)

または 050-5891-1977 office@taenoha.com

2016年 6月25日(土)

タイムスケジュール (開場 15分前)

16:00 1回目『大阪ストーリー』上映

18:00 2回目『大阪ストーリー』上映

19:30 懇親会 1時間 中田統一監督

懇親会:ゲストプロフィール

中田統一監督

1961年生まれ。韓国人の父と日本人の母との間に、7人兄弟の長男として大阪に生まれる。高校在学中にアメリカへ留学。1984年、大学卒業後ヨーロッパを放浪。1989年に英国国立映画テレビ学校に入学、卒業制作として撮った「大阪ストーリー」は、資金不足にもかかわらず世界中で高い評価を得た。英国でもBBCでゴールデンアワーに放映された。
Facebook: /toichi.nakata

今後の予定

●映画と話そう@TAMA #10 「バット・オンリー・ラヴ」
7月23日(土) 佐野和宏監督(2015年/89分/BD)

●映画と話そう@TAMA #11 「大阪蛇道」
8月27日(土) 石原貴洋監督(2013年/110分/BD)

大阪ストーリー

イギリス/1994年制作/77分/DVD上映
出演: 監督の一族郎党のみなさん
撮影: サイモン・アトキンス
監督、編集、録音: 中田統一



イギリスに映画の勉強の為に留学していた監督が、3年ぶりに大阪の実家に戻り、自分の家族にカメラを向けるところから(映画)は始まる。

父はナニワで金融業を営む在日コリアン、日本人の母は父の経営するパチンコ店を手伝いながら苦勞を重ねてきた。しかし父には、韓国にもう一つの家族がいた…。監督自身もカミングアウトしたい「ヒミツ」を胸に抱きながら、複雑な家族の実像を淡々と描くドキュメンタリー。

日本に久しぶりに帰る目的の一つはもちろん映画制作のためだったが、もう一つは自分に家業を継ぐ意思がないことを両親に宣言するためだった。それは、何よりもまず映画監督になりたいからなのだが、もう一つの重要な理由は監督がゲイであるからだった。家業を継ぐことは在日韓国人にとって単純に仕事を引き継ぐことを意味しているだけではなく、家族の再生産の構造の中に入り込むことを意味していた。

チラシ設置協力店様 チラシを置かせていただいているお店を紹介します。いつもご理解、ご支援、設置を快くご承諾いただきありがとうございます！
たま泉、キャリアマム、うずら、ララン、モンキーランド、スパークル、亀ハウス、はらっぱ、味市、市民活動情報センター、うさぎ、TAMA映画フォーラム、談singシネマ、烏立ち、夢二、日本映画大学、アルテリオ、下高井戸シネマ、アップリンク、ヒューマントラスト、ユーロスペース、映画美学校、新宿ロフトプラスワン、シネマカリテ、K'sシネマ、テアトル新宿、ポレポレ東中野 ほか

場所: ダイニングバー・モンキーランド

多摩市豊ヶ丘1-11-1(小田急・京王多摩センター駅徒歩15分)

(多摩センター駅東口から信号渡って線路下を直進、ラーメン店「麺でる」さんを左折、乞田川沿いを右折、2つの橋を過ぎてまっすぐ、白い階段がモンキーランドの入口です)



お申し込みは、予約フォーム www.taenoha.com または 050-5891-1977 office@taenoha.com

主催: たえのは



たえのは

検索



/taenoha



@taenoha